

『余地』

～相談業務を楽しむ方法 18～

＜児童福祉司の必需品＞

杉江 太朗

～警察官はかっこいい～

警察官は子どもの憧れの職業である。トミカでもパトカーは人気だし、ポリステーションなるおもちゃも発売されている。児童相談所の公用車がトミカになって発売されるなんてことはこの先ないだろうし、「児童相談所ステーション」なんてものがおもちゃとして登場することは想像も出来ない。

私も、仕事で警察官と出会うが、確にかっこいいと思うときがある。そしてそれは、本庁勤務の警察官ではなく、交番勤務のお巡りさんの方が余計にそう見える。その理由を考えると、やはり、あの服装や、腰回りの銃や警棒や手錠など、いわゆる「The 警察官」という恰好をしているからだろう。

ということで、警察官の格好にあこがれた私が、この仕事を続ける上で、持っておくと便利な物について紹介をしたいと思います。

～懐中電灯～

暗くなった事件現場、工場の跡地など、警察官がずっとどこかから懐中電灯を出

し、先を照らす場面がイメージできるだろうか。広くて照らすというより、ポイントを絞って照らすもので、細いフォルムのものが良い。持ち方は、当然あの持ち方である。（小指が照らす方を向く）テレビの見すぎと思うかも知れないが、実際に一緒に訪問した際に、暗くて見えない表札に向かって、警察官がそうやって照らしたのである。

次の日、私は懐中電灯を買いに行った。長さ 15 センチくらいで、ポケットに収まるサイズである。家庭訪問に行って、表札が見えないときや、暗い中で地図を見るときなんかには重宝している。さらに、職場に戻るのが遅くなり、もう既に皆が帰宅してしまった真っ暗な職場に入るときにも便利である。この先、事件現場を照らすような体験がないことを祈っている。

～メモ帳～

警察官が聞き込みをするときに持っているようなアレです。これもポケットサイズを持ち歩いていると、ふとしたときにメモが出来て便利。ペンともセットで持っておく方が良い。私は、メモ帳のペー

ジが開きやすいようにそこにペンを挟んでいる。聞き込みをするということはほとんどないが、家庭訪問した先で、立ち話しているときにもすぐに出せるし、例えば車のナンバーとか、洗濯物が干されているかとか、玄関の周りの様子などをメモするときにも、カバンの開け閉めする間もなく、すっと取り出し、さっと書ける。ただ、メモ帳そのものを落とさないように注意が必要である。この前、警察官に出会ったとき、その警察関がメモ帳に紐をつけて落とさないようにしていたのを見た。なるほどと思い、真似をしたいと思ったが、その紐の先はどこに繋がっていたのであろうか。制服などない私の職場。そのまま洗濯してしまわないか心配になった。

～日傘～

警察官は、良く、電柱の陰で容疑者の動きを見張っている。警察ドラマでは良く見られる張り込みの場面である。あんパンと牛乳が必須。児童相談所ではどうかと言えば、実は、張り込みをするということがたまにある。それでもまあ、テレビで見る警察ほどではないにせよ、夏場は暑い。訪問するときに、駐車場が近くにあれば良いが、少し歩かないとダメな場合など、炎天下で歩くことによる熱中症の心配もある。そこで役に立つのが折り畳み式の日傘である。すっと取り出し、ぱっと開く。それだけで日陰を確保することが

出来る。家庭訪問した先で、「もう少しで帰ってくると思います」「ちょっと待ってもらえますか」と言われ、家の前で待たなければいけない状況でも、少しは体力の温存に繋がるかもしれない。警察の人は張り込み中、暑くないのだろうか。

～アルコール除菌～

この辺りから、警察とは関係がなくなってくる。私は、手ピカジェルをリュックのチャック部分につけている。このご時世、家庭訪問をしたとしても、新型コロナウイルスを懸念され、訪問を快く受け入れてもらえない場合がある。また、感染予防の観点からも、いつでも除菌が出来る状況というのは必然であろう。家庭訪問をした先で、中々水道を借りるわけにはいかない。しかし、親が少しその場を離れ、尚且つ赤ちゃんが泣いてしまったときなどに、急に抱っこするような場面もあるかもしれない。そんなときにさっと消毒が出来ると、100%ではないだろうが、そのまま触れるよりかは安心ではなからうか。

私は、チャイムを鳴らす前に除菌を行い、玄関を開けてもらうまでの間に、アルコールを手に擦り込むようにしている。そんなことをしながら、少しでも感染対策に繋がればと思っている。そしてこれは、あまり言いたくはないのだが、敢えて擦り込む姿を家主が玄関を開けるタイミングで行うようにしている。これは、除菌

をしています、これだけ感染対策していますよというアピールも兼ねているのかもしれない。

～スマートフォンを車で見やすくするためのアレ～

名前がわからないが、車のクーラーの通気口にぶっ刺して、スマホを固定するアレである。私の職場の車にはナビがついていないため、スマホが必須である。当然、スマホを持ちながら運転するわけにはいかず、どこかに固定をしたいが、仮に落としてしまったときには、事故などにも繋がりがねない。私は性格的に、運転中に何か物を落としてしまうと、なくなるとわかってはいるながらも、気になって仕方がない。そのことに気を取られ過ぎると事故にも…。そのために、スマホを固定して、ナビのように使えるとそのリスクを軽減することが出来る。えっと、名前は何というのであろうか。

～デジタルカメラ～

このご時世にデジタルカメラを持ち歩く人は少ないのかもしれないが、工作中、私は、何か写真に撮りたいと思った場合、スマートホンではなく、デジタルカメラで撮影するようにしている。スマートホンだと便利で、確実に持ってあり、さらに画質も良いというメリットが多いのであるが、個人情報を含む写真を一時的であったとしてもデータで保存することが不

安なので、データを空にしたデジタルカメラを使用し、職場に戻ったらデータを移行するか、写真で打ち出すかなどしてデータを保存しないように心がけている。

～便せんと封筒～

訪問した際に留守の可能性もある。施設に子どもに会いに行ったが出会ってもらえない場合もある。そんなときに役に立つのが、便せんと封筒である。ちなみに、封筒は職場の住所や電話番号が書いた公用のものと、無地のものを準備している。公用の封筒の方が、折り返し連絡をもらったり、誰からの手紙なのかわかりやすいとは思うのだが、封筒に児童相談所と書かれていることで、気分を害してしまったり、児童相談所からの手紙が届いたと他の家族に見られなくなったりするかもしれない。なので2種を準備している。便せんは、持ち歩くことを忘れてしまったり、カバンの中で折れてしまったりすることもあるので、白紙の用紙を常にファイルに挟んで持ち歩き、便せんの代わりにすることもある。

～翻訳アプリ～

これは、持ち物ではないが、スマホにインストールしておきたいものである。私は日本語しか話せない。それでも仕事から外国籍の方に出会うこともある。そんなときに常に通訳の方と同行できるかと言えばそうではない。また、中学、高校、

大学と英語を扱ってきたもののほとんど話せないように、私が話せるようになることを目指すのも無謀である。そんなときに役立つのが翻訳アプリである。私は、Google 翻訳をインストールしている。たいていの外国語に対応しているので便利であるし、あらかじめ使う言語がわかっている場合は、翻訳アプリをスクショしたものを印刷し、相手に伝えたいことをその方の言語で見せて、その反応を見ることもできる。

始める1つとして、自身の持ち物に遊びという余地を加えてみてはどうだろうか。

～とにかく楽しむこと～

仕事は楽しんでナンボである。普通の懐中電灯を使うより、警察官が持っているような懐中電灯を、あたかも警察官のように使う方が楽しいに決まっている。今回、扱った物は、あってもなくても、それほど大きな影響を与えるものではないだろうが、少なくともそれを持つ児童福祉司である私は、この仕事を辞めずに続けられているのである。当然、ここに出た物を持ったからといって、持った皆かがそれぞれの仕事を続けやすくなるかと言えば、そうではない。しかし、殺伐と仕事を続けるくらいなら、こんな風に、自分の持ち物でその空気を少しでも和らげる工夫をしてみてもどうだろうか。私の、対人援助学マガジンでのテーマは『余地』である。物事には「余地 - 遊び」が必要である。仕事の質を高めるため、仕事のモチベーションを上げるため、出来るところから